

## (5) 主要花きの入荷と価格の見通し

### 【切花類の概要】

現在の入荷状況については、高冷地物が、ほぼ切上り西南暖地物中心の入荷となりますが、7月の長雨・8月の猛暑・9月の曇雨天等、天候不順の影響を受け各産地、生育不良を生じていましたが、11月下旬頃から平年並みに回復している傾向です。今年度は台風等、自然災害の被害もなく暖冬の影響により若干前進開花傾向の品目もありますが、概ね順調な入荷となりそうです。入荷のピークは12月21日（月）から25日（金）です。

### 【品目別】

キク	輪菊は宮城・栃木・静岡・愛知・福岡・長崎・沖縄産、スプレー菊は栃木・愛知・鹿児島産、小菊は沖縄産中心の入荷です。栃木産は定植時期の天候不順の影響を受け、上位等階級品の発生割合が低く、愛知産は若干前進傾向にあり、2Lに関しては12月16日（水）から21日（月）までで、それ以降の入荷は厳しそうです。沖縄産については、台風被害もなく黄色系を中心に順調な入荷が見込まれます。価格は平年並みで推移しそうです。
バラ	宮城・栃木・静岡・愛知産中心の入荷です。夏場の猛暑を受け生育不良を生じていましたが、12月向けは生育が回復しています。上位等級を中心に順調な入荷が期待できます。南米産やアフリカ産はコロナ以前の入荷数量に回復しつつあります。価格は平年並みで推移しそうです。
カーネーション	宮城・愛知・長崎産中心の入荷です。宮城は品種によって一部前進傾向で、愛知は若干遅れていますが平年並みの入荷が見込まれます。長崎産はスプレーカーネーションのみで、年末に向けて数量は増えますが生産は減少傾向で、運賃問題により単価で数量は上下します。
マツ	茨城・秋田産中心の入荷となります。全体的に生育は順調で平年並みの作付けを確保していますが、作業員の高齢化とコロナ禍により人手不足がますます深刻な問題となり、生産量は減少しています。予約相対の取引が中心となり、価格は安定する見込です。
千両	茨城・千葉産中心の入荷です。地域、生産者格差はあるが、全体入荷量は少ない予想です。上位等級は少ないですが、前年並みの入荷が見込まれ、前年に引き続き品薄感が予想されます。

### 【鉢物類の概要】

今年度は台風等の直接的な災害は少なく、間接的に梅雨前線を刺激して発生した7月の九州豪雨や日照不足、8月には猛暑日となる日が続く、降水量が平年の30%前後で作物の生育に大きな影響をもたらしました。コロナ禍の中、空輸便が減便され、種苗から開花株・花木（観葉）等輸入が滞る状態が続く、8月以降の市場入荷に影を落としています。年末に向けて作付量も4月のコロナ第1波時の消費動向低下が厳しかったこともあり、10月以降の作付減に拍車がかかっています。年始はポリアン苗物中心になり、中でもオブコニカやマライデス等は1月中旬より入荷、チューリップやヒヤシンスは前年同様の入荷と思われ、価格も前年並みの相場推移すると思われそうです。

### 【品目別】

シクラメン	宮城・福島・栃木・千葉産中心の入荷です。日照不足等で開花が遅れ気味でしたが、11月下旬より潤沢な入荷となり、良品の6号・5号共に12月初旬で終了予定です。今後の価格は若干弱含みで推移すると思われそうです。
シンビジューム	栃木・山梨・愛知産の入荷です。前年より開花遅れがあり、12月下旬までF数多めを中心に入荷する予定です。価格は、運賃高騰により1割高と予想されます。